

心臓移植希望者（レシピエント）選択基準改定における「前感作抗体」への対応について

この度、厚生労働省より、当学会に脳死心臓移植・脳死心肺同時移植の選択基準改訂の通知が発出されました。

**心臓移植希望者（レシピエント）選択基準 新旧対照表**

**別紙1**

改正後	現行基準
<p>1. 適合条件</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 前感作抗体</p> <p>1. <u>事前に抗HLA抗体検査（スクリーニング検査または抗体特異性同定検査）を実施し、陰性の場合、リンパ球交叉試験を省略する。</u></p> <p>2. <u>抗HLA抗体検査が未実施又は陽性の場合、リンパ球交叉試験を実施し、陰性であることを確認する。</u></p> <p>(4)～(6) (略)</p> <p>2. 優先順位</p> <p>適合条件に合致する移植希望者（レシピエント）が複数存在する場合には、第一に（1）が優先され、第二に（2）の1. Status 1 A を優先する。それ以降の優先順位は、（2）の Status が上位のものを優先し、同じ Status 内では、（3）～（5）までを勘案して決定する。（3. の具体的選択方法を参照）</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 治療等の状況による優先度</p> <p>1. (略)</p> <p>2. Status 1：Status 1 A以外で次の（ア）～（エ）までのいずれか1つ以上に該当する状態</p>	<p>1. 適合条件</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 前感作抗体</p> <p><u>リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）を実施し、抗T細胞抗体が陰性であることを確認する。</u></p> <p><u>パネルテストが陰性の場合、リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）は省略することができる。</u></p> <p>(4)～(6) (略)</p> <p>2. 優先順位</p> <p>適合条件に合致する移植希望者（レシピエント）が複数存在する場合には、第一に（1）が優先され、第二に（2）の1. Status 1 A を優先する。それ以降の優先順位は、（2）の Status が上位のものを優先し、同じ Status 内では、（3）～（5）までを勘案して決定する。（3. の具体的選択方法を参照）</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 治療等の状況による優先度</p> <p>1. (略)</p> <p>2. Status 1：Status 1 A以外で次の（ア）～（エ）までのいずれか1つ以上に該当する状態</p>

心肺同時臓移植希望者（レシピエント）選択基準 新旧対照表

別紙2

改正後	現行基準
<p>1. 適合条件</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 肺の大きさ 肺の大きさは臓器提供者（ドナー）及び臓器希望者（レシピエント）の年齢区分に応じ、下記の方法で評価する。</p> <p>(略)</p> <p>(4) 前感作抗体 1. 事前に抗 HLA 抗体検査（スクリーニング検査又は抗体特異性同定検査）を実施し、陰性の場合、リンパ球交叉試験を省略する。 2. 抗 HLA 抗体検査が未実施又は陽性の場合、リンパ球交叉試験を実施し、陰性であることを確認する。</p> <p>(5)～(7) (略)</p>	<p>1. 適合条件</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 肺の大きさ 肺の大きさは臓器提供者（ドナー）及び臓器希望者（レシピエント）の年齢区分に応じ、下記の方法で評価する。</p> <p>(略)</p> <p>(4) 前感作抗体 リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）を実施し、抗 T 細胞抗体が陰性であることを確認する。 パネルテストが陰性の場合、リンパ球直接交差試験（ダイレクトクロスマッチテスト）は省略することができる。</p> <p>(5)～(7) (略)</p>

今回提示された内容の「(4) 前感作抗体」への対応につきまして、

「2. 抗 HLA 抗体検査が未実施又は陽性の場合、リンパ球交叉試験を実施し、陰性であることを確認する。」については、これまでの方法に準じ「2. 抗 HLA 抗体検査が未実施又は陽性の場合、リンパ球交叉試験（補体依存性細胞傷害試験（CDC クロスマッチ）を実施し、陰性であることを確認する。」と解釈しております。

このことにより、心臓移植希望者の大半を占める輸血等による感作症例に対する心臓移植実施は可能となり、心臓移植後の超急性拒絶反応による重篤な状態に陥るリスクは避けられます。

そして、これからもわが国の心臓移植後の好成績の維持と補助人工心臓装着による心臓移植待機を持続させていくためにも「必要な症例に対してはリンパ球交叉試験として補体依存性細胞傷害試験（CDCクロスマッチ）を行い、陰性であることを確認する」システム継続が必須です。

なお、心肺同時移植におきましても、心臓移植と同様に考えたいと思います。

以上

一般社団法人 日本心臓移植学会  
代表理事 澤 芳樹  
副代表理事 布田伸一